神奈川歯学，55-2，149～150，2020

分　野　紹　介

神奈川歯科大学大学院全身管理医歯学講座歯科麻酔学分野

神奈川歯科大学大学院全身管理医歯学講座歯科麻酔学分野
教授　讃　岐　拓　郎

この度の新型コロナウイルス感染拡大に関連し，神奈川歯科大学同窓ならびに神奈川歯科学会会員の先生方におかれましては不安と恐怖を抱えながら歯科医療の第一線でご尽力をされていることと思います。心からお見舞い申し上げます。歯科診療における新型コロナウイルス感染症対策について各種団体より情報発信がなされています。刻一刻と変化する感染状況と新たに得られた知見からその対策も随時最新のものに更新されています。最新のものをご参照頂き，それぞれの環境で，その時点で考え得る現実的な対策を患者様はもちろんのこと，スタッフ，そして先生方ご自身のために実践頂きますようお願い申し上げます。事態が長期化するにつれ日常診療における感染対策に気の緩みが生じますが，今一度，気を引き締めて予防の徹底をお願いしたいと思います。

2020年1月1日付けで神奈川歯科大学大学院 全身管理医歯学講座歯科麻酔学分野 教授を拝命しました。神奈川歯科大学大学院全身管理医歯学講座歯科麻酔学分野は，1968年に東京医科歯科大学から野口政宏先生が教授として着任し，神奈川歯科大学麻酔学教室として開講しました。その後，大澤昭義教授，吉田和市教授を経て，大学院の大講座制の導入と改組により現在の名称になっています。開講以来既に50余年を数える歴史ある教室の伝統を引き継ぎ，さらに発展させていくという使命の大きさに身の引き締まる思いです（写真1）。

私は，大阪府の南部に位置する岸和田市出身で，1998年に父の母校である大阪歯科大学に入学しました。2004年に大阪歯科大学を卒業し，直ぐに母校の歯科麻酔学教室（小谷順一郎教授）へ大学院生として入局しました。大学院在学中は神経因性疼痛に関する研究に従事し，京都市立病院麻酔科をはじめいくつかの病院で臨床麻酔を勉強させていただきました。大学院修了後，2012年に上原財団海外留学リサーチフェローシップを得てピッツバーグ大学歯科麻酔科（Prof. Paul Moore）に留学しました。帰国後，教授のご退官と同時に，10年間在籍した大阪歯科大学歯科麻酔学講座を離れ，2014年に長崎大学大学院 歯科麻酔学（鮎瀬卓郎教授）に移り約6年間ご指導を賜りましたが，この度，神奈川歯科大学大学院全身管理医歯学講

写真1　神奈川歯科大学麻酔科 設立50周年を祝う会（令和元年11月3日）

座歯科麻酔学分野に着任した次第です。

学部教育では，熱意を持って歯科麻酔科学の面白さを訴える講義，実習を実践し，学生の琴線に触れ得る教育を目指します。また，開かれた教室を心がけ，学生が気軽に教室に来られるような雰囲気作りをしていきたいと思います。本学は国内の歯学部でもいち早く外国人留学生入試制度を設け，現在中国，韓国，台湾，香港からの外国人学部学生130名が在学しています（外国人比率約20%　全国5位）。その特性を活かして，本学を卒業した外国人留学生を出身国の法律（制度）に合わせて当教室で歯科麻酔科医として育成し，母国に歯科麻酔科医として帰国させるような国際的な歯科麻酔の育成拠点となる環境づくりを行っていきたいと思います。

基礎，臨床研究ともに，歯科，口腔外科手術の麻酔（全身麻酔や鎮静法）の専門性，特殊性を常に意識し，歯科麻酔科医としてオリジナリティのあるテーマに取り組んでまいりたいと思います。基礎研究はこれまで行ってきました呼吸生理学，特に上気道防御反射と上気道開存性に関する研究を分子生物学的エッセンスを加え更に発展させていきたいと思います。臨床研究では目の前の歯科麻酔臨床で遭遇する些細な疑問を見逃さず積極的にサイエンスして参りたいと思います。特に，当教室が歯科麻酔における他施設共同研究の中心的存在になれるよう努力していきたいと思います。

神奈川歯科大学附属病院歯科麻酔科では，年間約300例の全身麻酔と約300症例の静脈麻酔・静脈内鎮静法症例，年間のべ約250例のペインクリニック症例を担当しています（2019年度）。この症例数は，歯学部附属病院における麻酔管理件数として，決して多くありません。総合病院でない歯学部附属病院で麻酔管理出来る症例には制限がありますが，“麻酔できる症例は多く受ける”をモットーに，麻酔管理症例の増加を図ることが目下の課題です。また，手術室ならびに病棟運営の効率化，医療安全管理など，積極的に関与して参りたいと思います。

現在，教室員は常勤教員4名，大学院生3名と非常勤教員です（写真2）。今泉うの診療科准教授は，私が着任するまで附属病院における診療科長としてリーダーシップをとってこられました。鹿児島大学をご卒業後，本学大学院にて学位を取得されています。これまで麻酔薬の心筋保護作用を中心に研究を進めてこられていましたが，本年度より新しいテーマにチャレンジされています。城戸幹太診療科講師は，2018年に東北大学より着任し，現在医局長として教室の中心的役割を果たしています。研究は米国留学より一貫して，術後痛のメカニズムを分子生物学的に検討しています。黒田英孝大学院講師は，2018年に東京歯科大学より着任しました。東京歯科大学生理学教室での研究（三叉神経節における疼痛メカニズムの神経生理学的検討）を継続しながら，本学では主に慢性疼痛・しびれ治療に関する臨床的研究を行っています。

教員全員が他大学出身ですが，臨床，研究，教育を通して，本学に貢献するという気持ちを全員が強く持っています。神奈川歯科大学同窓ならびに神奈川歯科学会会員の先生方におかれましては，ご指導・ご鞭撻の程どうぞよろしくお願いいたします。

本稿は，日本歯科麻酔学会雑誌に「理事ならびに教授就任のご挨拶」として寄稿したものを加筆したものである。

写真2　現教室メンバー